



2021年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月7日

上場会社名 ニチバン株式会社

上場取引所 東

コード番号 4218 URL <https://www.nichiban.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高津 敏明

問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 管理本部長 (氏名) 遠藤 和彦

TEL 03-5978-5601

四半期報告書提出予定日 2020年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	9,195	12.3	419	43.4	473	37.7	185	44.7
2020年3月期第1四半期	10,486	7.4	741	20.2	759	23.3	336	45.6

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 135百万円 (56.1%) 2020年3月期第1四半期 307百万円 (49.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	8.96	
2020年3月期第1四半期	16.22	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	58,571	36,669	62.6	1,769.67
2020年3月期	59,752	37,218	62.3	1,796.15

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 36,669百万円 2020年3月期 37,218百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		33.00	33.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2021年3月期の配当予想については未定としております。今後、業績予想の開示が可能となった段階で、配当予想額を速やかに開示いたします。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計) 通期	20,000	10.3	800	50.9	850	49.5	500	48.6	24.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 2021年3月期第2四半期(累計)の連結業績予想については、新型コロナウイルス感染拡大によるインバウンド需要減退の影響などを一定程度織り込んでおります。また、2021年3月期の通期の連結業績予想については、現時点では合理的な算定が困難であるため、未定としております。今後、連結業績予想の算定が可能となった段階で速やかに開示いたします。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8「(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期1Q	20,738,006 株	2020年3月期	20,738,006 株
2021年3月期1Q	16,736 株	2020年3月期	16,707 株
2021年3月期1Q	20,721,277 株	2020年3月期1Q	20,721,353 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記予想は本資料の作成時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。上記の業績予想に関する事項は、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表および主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書および四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における経済環境は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、世界的に大規模な経済・社会活動の制限が実施され、当社も大きな影響を受け、先行きは不透明かつ、取り巻く事業環境も予断を許さない状況であります。

このような状況のなか、当社グループは新中期経営計画【ISHIZUE 2023 ～SHINKA・変革～】を推進し、重点テーマである「イノベーション創出」「グローバル展開・拡大」「AI・IoT積極活用」「持続的成長を担う人財育成」を実行し、『NICHIBAN GROUP 2030 VISION』実現に向けて取り組んでおります。

売上高は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるインバウンド需要悪化およびスポーツ需要の低迷・学校休校ならびにオフィス勤務の減少によるテープ需要の低迷により、前年同期比12.3%減の91億9千5百万円となりました。

営業利益は、活動制限や自粛による旅費交通費および広告宣伝費の減少等の影響もあり、販売費及び一般管理費は減少したものの、売上高の減少により、前年同期比43.4%減の4億1千9百万円となりました。

経常利益は、営業利益の減少により、前年同期比37.7%減の4億7千3百万円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、これらの影響に加え、当社の旧大阪工場（藤井寺市）における建物の解体工事にかかる追加費用を特別損失として引当計上したことにより、前年同期比44.7%減の1億8千5百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

メディカル事業

(ヘルスケアフィールド)

ドラッグストアを中心とした大衆薬市場におきましては、鎮痛消炎剤“ロイヒつば膏TM”シリーズのインバウンド需要が新型コロナウイルス感染症拡大の影響により低迷するとともに、スポーツ需要も外出自粛の影響を受け、テーピングテープの売上が低迷いたしました。

このような状況のなか、高機能救急絆創膏“ケアリーヴTM”シリーズの売上は、サンプリングやプロモーションを実施し、認知拡大を進めた結果、前年並みの売上となりましたが、フィールド全体としての売上は前年を大きく下回りました。

(医療材フィールド)

医療機関向け医療材料市場におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、来院患者数および手術件数の減少にともない、医療機関向けの消耗品使用量が減少し、厳しい販売環境でありました。また、病院訪問規制や学会の延期・リモート開催への変更など、従来の営業活動が制限されながらの活動となりました。

このような状況のなか、術後ケアをトータルサポートする“アスカブリックTM”シリーズの売上は、前年並みとなりましたが、フィールド全体としての売上は前年を下回りました。

以上の結果、ヘルスケアフィールドと医療材フィールドを合わせましたメディカル事業全体（海外事業を含む）の売上高は37億7千8百万円（前年同期比24.5%減）、営業利益は7億9千9百万円（前年同期比40.4%減）となりました。

テープ事業

(オフィスホームフィールド)

文具事務用品市場におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるオフィス勤務の減少および学校休校により、オフィス向け・学校学童向け需要ともに減少を続けており、厳しい販売環境でありました。

このような状況のなか、一般ユーザーや商店での感染注意喚起のための掲示物増加にともない、テープ需要が伸び、「セロテープ[®]」および両面テープ「ナイスタックTM」の売上が前年を上回り、フィールド全体としての売上も前年を上回りました。

(工業品フィールド)

産業用テープ市場におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、自動車等の大規模工場の操業停止や各種店舗の営業休止など、全体として厳しい販売環境でありました。

このような状況のなか、食品スーパー向けの売上は外出自粛要請により、内食化需要が高まり好調に推移し、お弁当・お惣菜の蓋固定に使用する「フードパックテープ™」および食品結束用「たばねら™テープ」の売上は、前年を上回りましたが、フィールド全体としての売上は前年を下回りました。

以上の結果、オフィスホームフィールドと工業品フィールドを合わせましたテープ事業全体（海外事業を含む）の売上高は54億1千6百万円（前年同期比1.1%減）、営業利益は5億4千4百万円（前年同期比59.1%増）となりました。

なお、海外事業におきましては、アジアおよび欧州を重点取り組み地域としておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、自動車等の大規模工場の操業停止など、先行き不透明な状況が続きました。このような状況のなか、手術後の傷あとケア専用テープ「アトファイン™」の中国向け展開を開始いたしました。さらに、高機能救急絆創膏“ケアリーヴ™”や止血製品“セサブリック™”シリーズなどのメディカル事業製品と、「Panfix™セルローステープ」や塗装用和紙マスキングテープなどのテープ事業製品の販売チャネルの構築と製品育成に注力し、マーケティング活動および地域需要に対応した製品開発を進めました。また、ドイツのデュッセルドルフ駐在員事務所にて、欧州地域における販売事業の拡大および成長戦略を推進するため、情報収集と市場調査を実施するとともに、タイ・バンコクの販売子会社NICHIBAN (THAILAND) CO., LTD. にて、さらに大きな需要が見込めるASEAN（アセアン）地域へ高機能救急絆創膏“ケアリーヴ™”シリーズの販売拡大に努めてまいりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ11億8千万円減少し、585億7千1百万円となりました。流動資産は9億2千8百万円の減少、固定資産は2億5千2百万円の減少となりました。

流動資産の減少は、受取手形及び売掛金の減少等によるものです。

負債は、前連結会計年度末と比べ6億3千2百万円減少し、219億1百万円となりました。流動負債は、6億6千万円の減少、固定負債は、2千8百万円の増加となりました。

流動負債の減少は、電子記録債務の減少等によるものです。また、固定負債の増加は、退職給付に係る負債の増加等によるものです。

純資産は前連結会計年度末と比べ5億4千8百万円減少し、366億6千9百万円となりました。これは配当金の支払いにより利益剰余金が減少していること等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の経済環境は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、世界的に大規模な経済・社会活動の制限が実施され、収束の見込みも依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループは、2019年度より新たな「ニチバングループの理念」を策定するとともに、新中期経営計画【ISHIZUE 2023 ～SHINKA・変革～】をスタートし、『NICHIBAN GROUP 2030 VISION』実現に向けて取り組んでおります。

しかしながら、第2四半期(累計)の連結業績予想については、当社の旧大阪工場(藤井寺市)における建物の解体工事にかかる特別損失の計上等の影響により、親会社株主に帰属する当期純利益が当初の予想を下回る見込みであるため、以下の通り修正いたします。

なお、通期の連結業績予想については、現時点で合理的に算定することが困難なことから、引き続き未定としております。今後、連結業績予想の算定が可能となった段階で速やかに公表いたします。

2021年3月期 第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2020年4月1日～2020年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A) (2020年5月15日発表)	百万円 20,000	百万円 800	百万円 850	百万円 600	円 銭 28.96
今回修正予想(B)	20,000	800	850	500	24.13
増減額(B - A)	-	-	-	△100	-
増減率(%)	-	-	-	△16.7	-
(ご参考)前期第2四半期実績 (2020年3月期 第2四半期)	22,285	1,630	1,683	972	46.93

(注) 以上の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表および主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,879	12,277
受取手形及び売掛金	9,886	8,457
電子記録債権	2,922	2,562
商品及び製品	4,768	5,109
仕掛品	1,865	1,799
原材料及び貯蔵品	1,797	1,932
その他	309	357
貸倒引当金	△6	△2
流動資産合計	33,421	32,492
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,969	9,801
機械装置及び運搬具（純額）	7,620	7,602
その他（純額）	3,219	3,193
有形固定資産合計	20,808	20,597
無形固定資産	473	534
投資その他の資産	5,049	4,946
固定資産合計	26,331	26,078
資産合計	59,752	58,571

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,070	3,773
電子記録債務	5,631	4,813
未払法人税等	208	118
賞与引当金	1,097	527
役員賞与引当金	78	14
固定資産撤去費用引当金	143	100
資産除去債務	432	257
その他	2,512	3,909
流動負債合計	14,175	13,514
固定負債		
長期借入金	2,000	2,000
役員退職慰労引当金	93	76
退職給付に係る負債	2,997	3,059
長期預り保証金	3,021	3,013
資産除去債務	113	113
その他	133	124
固定負債合計	8,358	8,387
負債合計	22,533	21,901
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,451	5,451
資本剰余金	4,186	4,186
利益剰余金	26,534	26,036
自己株式	△15	△15
株主資本合計	36,158	35,659
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	129	157
為替換算調整勘定	△28	△96
退職給付に係る調整累計額	959	948
その他の包括利益累計額合計	1,060	1,009
純資産合計	37,218	36,669
負債純資産合計	59,752	58,571

(2) 四半期連結損益計算書および四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	10,486	9,195
売上原価	6,815	6,232
売上総利益	3,670	2,963
販売費及び一般管理費	2,929	2,543
営業利益	741	419
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	8	9
コストキャップ保証料解約返戻金	-	27
持分法による投資利益	44	32
その他	15	7
営業外収益合計	70	78
営業外費用		
支払利息	11	9
為替差損	-	6
コストキャップ保証料	26	-
その他	13	8
営業外費用合計	51	24
経常利益	759	473
特別損失		
固定資産除売却損	2	15
固定資産撤去費用	-	37
固定資産撤去費用引当金繰入額	175	77
土壌汚染対策費用	-	11
特別損失合計	177	142
税金等調整前四半期純利益	582	330
法人税等	245	144
四半期純利益	336	185
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	336	185

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	336	185
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△25	27
為替換算調整勘定	△5	△0
退職給付に係る調整額	△12	△10
持分法適用会社に対する持分相当額	14	△67
その他の包括利益合計	△28	△50
四半期包括利益	307	135
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	307	135
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	メディカル 事業 (百万円)	テープ 事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	5,008	5,478	10,486	—	10,486
(2) セグメント間の内部 売上高または振替高	28	25	53	△53	—
計	5,036	5,503	10,540	△53	10,486
セグメント利益	1,341	342	1,683	△942	741

(注) 1. セグメント利益の調整額942百万円には、セグメント間取引消去53百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用888百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	メディカル 事業 (百万円)	テープ 事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	3,778	5,416	9,195	—	9,195
(2) セグメント間の内部 売上高または振替高	12	19	31	△31	—
計	3,790	5,436	9,227	△31	9,195
セグメント利益	799	544	1,343	△924	419

(注) 1. セグメント利益の調整額924百万円には、セグメント間取引消去31百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用892百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。